

# 技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	25 天然林の優良林分造成の実験林設定 - 除間伐 -				開 発 期 間	平成9年度 ~ 平成38年度				
開 発 箇 所	去川国有林 253は <sub>1</sub> 林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機 関	技 術 開 発 目 標	3	特 定 区 域 内	特 定 区 域 外	○	
開 発 目 的 (数 値 目 的)	天然林において有用広葉樹の発生率が高く生長旺盛な林分において、用材率を高めるための残存木の選木本数管理（枝下高、通直性）のための除間伐の適期について検証し、有用広葉樹を造成する育成天然林施業の指標とする									
年 度 別 実 施 報 告	18年度 実 施 報 告					19年度 実 施 計 画 書				
	実 施 内 容					普 及 指 導				
平成9年度 ①試験地設定（位置表示）4区 ②除伐作業（本数別に3区域） ③設定木現況調査（通直性・胸高径・枝下及び樹高） ④林分構成調査（本数・材積） ⑤試験地の表示（看板） ⑥除伐功程（人工数）調査 平成13～14年度 ①試験地管理（歩道整備） 平成15年度 ①生長量調査 平成16年度 ①試験地調査②除伐③試験地管理 平成17年度 ①除伐②試験地管理	実施事項なし					広葉樹の保育方法は確立したものが無く、当試験地は密度の違いによる生育比較が容易に観察できる。 引き続き調査分析を行い、天然林における除間伐の優位性の有無を究明する。				
技術開発委員会における意見										

# 技 術 開 発 実 施 報 告 ・ 計 画

様式 2

森林技術センター

課 題	25 天然林の優良林分造成の実験林設定 -除間伐-				開 発 期 間	平成9年度 ~ 平成58年度 変更期間 平成9年度 ~ 平成38年度						
開 発 箇 所	去川国有林 253は林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機 関	技 術 開 発 目 標	3	特 定 区 域 内	特 定 区 域 外 <input type="radio"/>				
開 発 目 的 (数 値 目 的)	天然林において有用広葉樹の発生率が高く生長旺盛な林分において、用材率を高めるための残存木の選木本数管理（枝下高、通直性）のための除間伐の適期について検証し、有用広葉樹を造成する育成天然林施業の指標とする											
年 度 別 実 施 報 告	17年度 実 施 報 告				18年度 実 施 計 画 書							
	実 施 内 容				普 及 指 導							
平成9年度 ①試験地設定（位置表示）4区 ②除伐作業（本数別に3区域） ③設定木現況調査（通直性・胸高径・枝下及び樹高） ④林分構成調査（本数・材積） ⑤試験地の表示（看板） ⑥除伐工期（人工数）調査 平成13～14年度 ①試験地管理（歩道整備） 平成15年度 ①生長量調査 平成16年度 ①試験地調査②除伐③試験地管理	1 除伐（8月） 面積：1.54ha 人工数：15,750人 2 試験地管理 8月 調査木ナンバープレート取替 作業方法別境界にペンキ標示を実施した。 人工数：4,000人				1 生育状況については、1～3本区共に、良い生長をしており大差は見られないが、肥大生長させるには密度が低い1本区が良いが、上長生長を促すには密度を高くする方が良い。 2 発生密度を高め、除伐の作業コストを下げるためには3本区が有利と思われる。 3 今後、樹種毎、プロット毎に生長の差が生じるものと思われるので、引き続き調査分析を行い、天然林における除間伐の優位性の有無を究明する。				実施事項なし  開発期間を変更			
技術開発委員会における意見												

(注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。  
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。  
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。  
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。



写真1 1本区調査プロット除伐後



写真2 2本区調査プロット除伐後



写真3 3本区調査プロット除伐後



写真4 対照区状況

# 技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	2.5 天然林の優良林分造成の実験林設定 - 除間伐 -				開 発 期 間	平成9年度 ~ 平成58年度									
開 発 箇 所	去川国有林 253は <sub>1</sub> 林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機	技 術 開 発 目 標	3	特 定 区 域 内	特 定 区 域 外	○						
開 発 目 的 (数 値 目 的)	天然林において有用広葉樹の発生率が高く生長旺盛な林分において、用材率を高めるための残存木の選木本数管理（枝下高、通直性）のための除間伐の適期について検証し、有用広葉樹を造成する育成天然林施業の指標とする														
年 度 別 実 施 報 告	16年度 実 施 報 告					17年度 実 施 計 画 書									
	実 施 内 容					普 及 指 導									
平成9年度 ①試験地設定（位置表示）4区 ②除伐作業（本数別に3区域） ③設定木現況調査（通直性・胸高径・枝下及び樹高） ④林分構成調査（本数・材積） ⑤試験地の表示（看板） ⑥除伐工期（人工数）調査 平成13～14年度 ①試験地管理（歩道整備） 平成15年度 ①生長量調査	<p>1 試験地調査（10～11月） 各プロット（6プロット）内試験木表示（ナンバー札付け替え） 人工数：18,500人</p> <p>2 除伐（11月） 1本仕立て区と2本仕立て区の途中までを除伐実行中に、台風により林道が通行不可となり中断。 残量は平成17年度に実施。 面積：0.12ha 人工数：4,250人</p> <p>3 試験地管理（10月） 見学路木製階段設置 人工数：6,000人</p>					<p>1～3本区の生長は良好であり大差は見られないが、肥大生長させるには密度が低い1本区が良いが、上長生長を促すには密度を高くする方が良い。 除伐のコストから見れば、3本区が有利と思われる。 今後、樹種毎、プロット毎に生長の差が生じるものと思われるので、引き続き調査分析を行い、天然林における除間伐の優位性の有無を究明する。 保残木以外の雑灌木を除伐したところ、林況が良くなり保残木の樹幹生長が良くわかるようになった。</p>					<p>1 除伐 1.54ha 2 試験地管理</p>				
技術開発委員会における意見															

- (注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。  
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。  
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。  
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。